



T&Dホールディングス



森 恭弘氏
T&Dホールディングス
執行役員
サステナビリティ推進部・広報部担当

森 恭弘(もり・やすひろ)氏：1989年太陽生命入社。2018年太陽生命総合リスク管理部長、19年太陽生命執行役員、23年より現職

写真：村田 和聡

「挑戦と発見」で成長を加速する

生命保険3社を中核に、保険事業を通じてグループ全体でサステナビリティの課題に取り組む。責任ある機関投資家として、経済の発展と持続可能な社会の実現に向けて資産運用を行なう。

— T&D保険グループの変遷について教えてください。

森 T&Dホールディングスは、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命の持株会社です。1999年に太陽生命と大同生命が業務提携し、グループの名称を「T&D保険グループ」としました。

当時はバブル崩壊の影響が残る中、日本版金融ビッグバンによる規

制緩和で生命保険業界でも経営破綻や経営危機による再編が起りましたが、太陽生命と大同生命の提携はそれとは一線を画しています。強い財務体力と堅実な経営風土を持つ優良企業同士が、業界初の持株会社構想の下で提携しました。2001年には、旧東京生命を買収して立ち上げたT&Dフィナンシャル生命がグループに加わりました。

02年4月には大同生命が国内生保として初めて相互会社から株式会社として組織変更して上場し、翌年4月には太陽生命が相互会社から株式会社として組織変更して上場しました。

04年4月には国内生命保険会社として初めて持株会社「T&Dホールディングス」を設立し、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命を完全子会社としました。この他、

投資や投資先管理を行なうT&Dユニテッドキャピタル、資産運用関連事業を担うT&Dアセットマネジメント、ペット保険を取り扱うペット&ファミリー損害保険、ヘルスケア・健康領域におけるサービス提供などを行なうAll Rightなどのグループ会社で構成されています。

— 各社が合併することなく、独立したまま経営統合しました。

森 太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命の生保3社は、対象とする市場やチャネル、扱う商品が異なります。

太陽生命は、大都市圏や地方中核都市に集中展開し、約9000人の営業職員が死亡・医療・介護保障を中心とした総合生活保障の一般消費者向け保険商品を扱っています。

大同生命は、中小企業関連団体と提携し、中小企業経営者などを対象に定期保険や就業不能保障などの商品を扱っています。

T&Dフィナンシャル生命は、様々な保険会社の商品を扱う銀行や証券会社、来店型保険ショップなど、約200の乗合代理店を通じて外貨連動型などの貯蓄性商品や収入保障保険などの商品を提供しています。

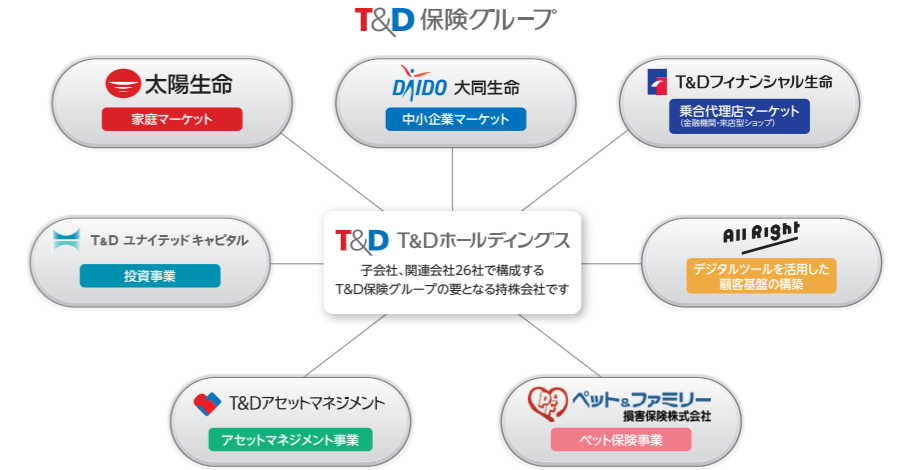
それぞれが特定の市場に特化した戦略を展開しており、生命保険グループとして独自性と専門性の高いビジネスモデルを構築しています。各社の独自性を生かして経営統合するために、持株会社を設立しました。

「挑戦と発見」の文化を醸成

— 「T&D」というグループ名に込めた思いを教えてください。

森 T&Dは「Try & Discover (挑

■ T&D保険グループの主な企業



持株会社のT&Dホールディングスを中核に、子会社と関連会社26社で構成する。「Try & Discover (挑戦と発見)」による価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指す

出所：T&Dホールディングス

戦と発見)」を意味しています。グループ名を決める際に社内公募で提案された名称の1つです。

生命保険会社は契約者からお預かりした保険料の安定した運用が求められる、保守的な経営になりがちです。グループ名には、大同生命が国内生保では初めて相互会社から株式会社に転換して上場し、太陽生命も後に続いたように、様々なことに挑戦して事業を拡大する文化を築いていきたいという思いを込めています。

グループ企業といっても、会社ごとに企業文化や事業の進め方は異なります。多様な人材が持株会社に集まり、経営の質は高まりました。

保険会社は、株主が存在せず、契約者一人ひとりが会社の構成員(社員)になる相互会社の形態を取る企業が多いのですが、当社グループは株式会社化により市場からの資金調達がしやすく、様々なステークホルダーとのエンゲージメントによるガバナンスも充実したと感じています。

— サステナビリティにはどのように取り組んでいますか。

森 サステナビリティに対する取り組み姿勢を表明した「T&D保険グループ サステナビリティステートメント」を公表しています。

グループの経営ビジョン「保険を通じて、「ひとり」から、世の中のしあわせをつくる。ていねいに向き合い、大胆に変えるグループへ。」を実現するため、長期ビジョン「Try & Discover 2025」を策定しました。

資本効率の向上によるグループ収益の拡大という「経済的価値」と、事業を通じた社会課題の解決という「社会的価値」の両方を追求し、「共有価値の創造」を目指します。

「T&D保険グループ サステナビリティステートメント」においては、「①すべての人の健康で豊かな暮らしの実現」「②すべての人が活躍できる働く場づくり」「③気候変動の緩和と適応への貢献」「④投資を通じた持続可能な社会への貢献」



の4つの重点テーマに取り組んでいます。事業活動に関わるサステナビリティの分野から、社会にとって重要度が高く、当社グループの事業と関連が大きい重要な社会課題について、優先して取り組むべきテーマを設定しました。

各社が独自の取り組みを展開

——重点テーマの「すべての人の健康で豊かな暮らしの実現」について説明してください。

森 グループ各社がそれぞれの取り組みを進めています。太陽生命は16年に「太陽の元気プロジェクト」

を立ち上げ、健康寿命の延伸という社会課題に取り組んでいます。例えば、「人生100歳時代」を保険で支えていく「予防保険シリーズ」を展開しています。社会的課題である認知症と向き合い、老後を安心して送るための「ひまわり認知症予防保険」、がん・重大疾病の早期予防や早期発見につなげる「がん・重大疾病予防保険」などです。がん保険では、がんにかかり罹患したり持病があったりしても入りやすい「告知緩和型がん診断保険」を提供しています。

お客様に安心して保険契約を継続していただけるよう、給付手続き時

のサポートや確実な保険金・給付金の受け取りのサービスも充実させています。その1つが「かけつけ隊」サービスです。お客様のご要望に応じて太陽生命の全国153支社から社員が訪問し、必要書類の取得や請求書類の書き方など給付金請求の手続きをサポートします。

——中小企業の事業継続に向けた保険も販売しています。

森 大同生命は、中小企業で働く人とその家族のウェルビーイングが実現する社会への貢献を目指しています。23年3月には、中小企業と共に社会課題の解決に取り組むことを明確



■ サステナビリティ重点テーマに基づいた取り組み事例

重点テーマ①「すべての人の健康で豊かな暮らしの実現」

【太陽生命の取り組み事例】

ひまわり認知症予防保険

血液検査で、認知症の前段階であるMCI（軽度認知障害）のリスクを調べられる

ガン・重大疾病予防保険

約5mlの採血で、現在がんである可能性と、将来、脳卒中・心筋梗塞、糖尿病になるリスクを一度に評価できる

笑げば変わる、未来が広がる。
アミノインデックス
リスクスクリーニング

「予防保険シリーズ」は、保険を通じて保障の提供とともにお客様の「予防」への取り組みをサポートする

【大同生命の取り組み事例】

3万社突破!

社長が声をかけあうサイト、**どうだい?**
dodai.daido-life.co.jp

イメージキャラクター「どう鯛(だい)くん」

様々な中小企業の経営者が思いを共有できるWebコミュニティサービス「どうだい?」を展開している

出所：T&Dホールディングス

重点テーマ④

「投資を通じた持続可能な社会への貢献」



大同生命が投資したインパクト債券ファンド「Blue-Orchard Impact Bond Fund - Blue I」では、金融サービスの行き届かない地域にある中小企業の雇用創出などのためのローンを資金使途とするソーシャルボンドなどに投資している

写真提供：ブルーオーチャード・ファイナンス



投融資活動で持続可能な社会に貢献



にした「サステナビリティ推進計画」を策定しました。中小企業が抱える幅広い社会課題の解決と、永続的発展を通じた持続可能な社会の実現に貢献します。

経営者の信用と手腕で経営が成り立っている中小企業の場合、その力量が取引先や金融機関が企業の信用を判断するための重要な基準となり、経営者の交代は多大なリスクになる場合があります。

19年には保険金額と保険期間に加え、保険料と解約払戻金のバランスを自在に設定できる業界初のオーダーメイド型保険「αシリーズ」の提供を開始しました。

22年には、健康経営の推進による病気の予防と、病気などでの予期せぬリタイアに備える機能を一体化した健康増進型保険「会社みんなでKENCO+」を発売しました。23年には一時金型の入院保障で入院前後の通院費用などを含め、経営者が一時的に不在になる時の会社の固定費を幅広く保障する「一時金型Mタイプ」も発売しました。

T&Dフィナンシャル生命は、外貨連動型終身保険「生涯プレミアムワールド5」や、投資信託と生命保険を融合した「ハイブリッド あんしんライフ」などの保険商品を代理店経由で販売しています。

22年、毎月の積み立てで運用しながら時間分散を図って資産を形成する「ハイブリッド つみたて ライフ」を、23年には円貨プランを新設してリニューアルした「ファイブテン・ワールド3」を発売しました。主にシニア層のお客様に向けて、セカンドライフの生活資金の準備や遺族保障などのニーズに応える資産形成型商品を提供し、サービス向上に向けた取り組みを進めています。

——重点テーマとして「投資を通じた持続可能な社会への貢献」も掲げています。

森 太陽生命は07年に日本の生保として初めて、責任投資原則（PRI）

に署名しました。12年にはT&Dアセットマネジメント、16年には大同生命も署名しています。

機関投資家として、投融資活動を通じて社会や環境により良い影響を及ぼし、持続可能な社会の実現に貢献することが不可欠であるという考えの下、ESG課題を考慮し、グループ各社の保有資産の特性などに応じて資産運用を行なっています。

資産運用プロセスにおいては、投融資判断にESGの非財務情報に関する分析・評価を取り入れ、長期的な投資成果の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

投資リターンとともに環境など社会課題解決のインパクトを追求するインパクト投資にも力を入れています。再生可能エネルギー発電事業への投資を通じてCO₂排出量を削減する「インフラファンド」や、教育・ヘルスケア・食料・農業・気候・環境保全などの企業に投資する「プライベート・エクイティ・ファンド」、世

界のSDGs債への投資を通じてインパクトを創出する「債券ファンド」など、投資リターンと社会的インパクトの両立を目指すインパクトファンドに投資しています。

22年には、大同生命が英シュローダー・グループ傘下のブルーオーチャード・ファイナンスが運用受託する「BlueOrchard Impact Bond Fund - Blue I」への投資を実行しました。グローバルで金融サービスが行き届かない地域にある中小企業の雇用創出などのローンを資金使途としたソーシャル・ファンドです。

ESGの観点から好ましくない企業や事業を投融資の対象から除外するネガティブスクリーニングの手法を導入しており、環境負荷の大きい石炭火力発電や石炭採掘などの事業に対しては新規の投融資を行わない方針です。

事業を通じて社会課題を解決

——サステナビリティ部門のトップと

して、ESG経営についての考えを聞かせてください。

森 気候変動や生物多様性などの環境問題は地球規模の課題であり、世界経済と社会の変化を通して人々の暮らしに大きな影響を及ぼします。私たち一人ひとりができることに着実に取り組む一方で、保険を通じて様々な災害や予期せぬ事象から人々の幸せを守りたいと考えています。

お客様からお預かりした大切な保険料を資金にESG投資を行なう責任ある機関投資家として、「GHGプロトコル」のスコープ3 カテゴリ15の「投資」について投融資先のCO₂排出量の削減目標を設定しています。30年に20年比で40%削減、50年にネットゼロを目指します。

社会性、公共性が高い生命保険業を営むグループとして、事業を通じて社会課題を解決し、共有価値を創造して世の中の幸せを生み出すことで、さらに発展していきたいと考えています。